

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第2区分

【発行日】平成27年7月16日(2015.7.16)

【公開番号】特開2014-95731(P2014-95731A)

【公開日】平成26年5月22日(2014.5.22)

【年通号数】公開・登録公報2014-027

【出願番号】特願2012-234185(P2012-234185)

【国際特許分類】

G 02 B 5/30 (2006.01)

G 02 B 1/10 (2015.01)

G 02 F 1/1335 (2006.01)

C 08 J 7/04 (2006.01)

B 32 B 27/30 (2006.01)

【F I】

G 02 B 5/30

G 02 B 1/10 Z

G 02 F 1/1335 5 1 0

C 08 J 7/04 C E Y K

B 32 B 27/30 A

【手続補正書】

【提出日】平成27年5月27日(2015.5.27)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

アクリル樹脂からなる熱可塑性基材上に、ハードコート層を有する光学フィルムであって、該熱可塑性基材と該ハードコート層との間に、ハードコート層形成用組成物に含まれるバインダーと基材のアクリル樹脂とを含む浸透層が設けられたことを特徴とする光学フィルム。

【請求項2】

上記ハードコート層の膜厚が1μm以上であり、且つ、ハードコート層と浸透層の膜厚の合計に対するハードコート層の膜厚が、10%以上90%以下であることを特徴とする請求項1に記載の光学フィルム。

【請求項3】

上記ハードコート層を形成するためのハードコート層形成用組成物が、(a)ポリマー成分を含んでいることを特徴とする請求項1または2に記載の光学フィルム。

【請求項4】

上記(a)ポリマー成分が、導電性ポリマーであることを特徴とする請求項3に記載の光学フィルム。

【請求項5】

上記ハードコート層形成用組成物は、さらに(b)同一分子内に2個以上の不飽和二重結合を有するモノマー、(c)光重合開始剤、(d)有機溶剤を含有することを特徴とする請求項3又は4に記載の光学フィルム。

【請求項6】

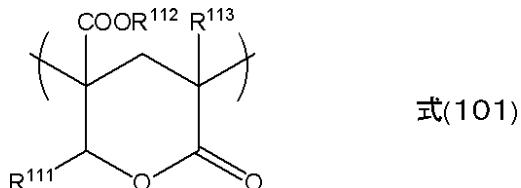
上記(b)同一分子内に2個以上の重合性基を有するモノマーのS P値が17~30で

あることを特徴とする請求項5に記載の光学フィルム。

**【請求項 7】**

上記熱可塑性基材のアクリル樹脂が、下記式(101)で表されるラクトン環単位、

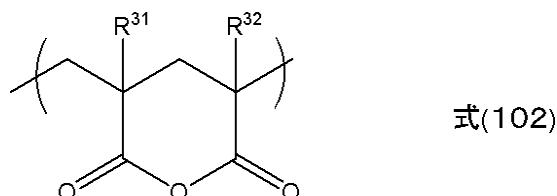
**【化1】**



(式中、R<sup>111</sup>、R<sup>112</sup>、R<sup>113</sup>は、それぞれ独立に、水素原子又は炭素数1～20の有機残基を表す。なお、有機残基は酸素原子を含んでいてもよい。)

または、下記式(102)で表されるグルタル酸無水物単位構造

**【化2】**



(式中、R<sup>31</sup>、R<sup>32</sup>は、それぞれ独立に、水素原子又は炭素数1～20の有機残基を表す。なお、有機残基は酸素原子を含んでいてもよい。)

を含むことを特徴とする請求項1～6のいずれか一項に記載の光学フィルム。

**【請求項 8】**

偏光子と、該偏光子の保護フィルムとして請求項1～7のいずれか一項に記載の光学フィルムとを少なくとも1枚含むことを特徴とする偏光板。

**【請求項 9】**

液晶セルと、該液晶セルの少なくとも一方に配置された請求項8に記載の偏光板とを含み、前記光学フィルムが最表層となるように配置されたことを特徴とする液晶表示装置。

**【請求項 10】**

アクリル樹脂からなる熱可塑性基材上に、ハードコート層を有する光学フィルムの製造方法であって、前記熱可塑性基材上にハードコート層形成用組成物を塗布することにより、該熱可塑性基材と該ハードコート層との間に、ハードコート層形成用組成物に含まれるバインダーと基材のアクリル樹脂とを含む浸透層形成することを特徴とする光学フィルムの製造方法。

**【手続補正2】**

**【補正対象書類名】**明細書

**【補正対象項目名】**0009

**【補正方法】**変更

**【補正の内容】**

**【0009】**

[1] アクリル樹脂からなる熱可塑性基材上に、ハードコート層を有する光学フィルムであって、該熱可塑性基材と該ハードコート層との間に、ハードコート層形成用組成物に含まれるバインダーと基材のアクリル樹脂とを含む浸透層が設けられたことを特徴とする光学フィルム。

[2] 上記ハードコート層の膜厚が1μm以上であり、且つ、ハードコート層と浸透層の膜厚の合計に対するハードコート層の膜厚が、10%以上90%以下であることを特徴とする[1]に記載の光学フィルム。

[3] 上記ハードコート層を形成するためのハードコート層形成用組成物が、(a)ポリマー成分を含んでいることを特徴とする[1]または[2]に記載の光学フィルム。

[ 4 ] 上記( a )ポリマー成分が、導電性ポリマーであることを特徴とする[ 3 ]に記載の光学フィルム。

[ 5 ] 上記ハードコート層形成用組成物は、さらに( b )同一分子内に2個以上の不飽和二重結合を有するモノマー、( c )光重合開始剤、( d )有機溶剤を含有することを特徴とする[ 3 ]又は[ 4 ]に記載の光学フィルム。

[ 6 ] 上記( b )同一分子内に2個以上の重合性基を有するモノマーのSP値が17～30であることを特徴とする[ 5 ]に記載の光学フィルム。

[ 7 ] 上記熱可塑性基材のアクリル樹脂が、下記式( 101 )で表されるラクトン環単位、